

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：大場勝雄 幹事：桜井健太郎

情報委員長：米沢修一

1982・4月8日

第213号

低成長下の経営

経営コンサルタント

福田 義昭氏



日本経済は、高度成長から安定成長へ、安定成長から低成長へ、と移行しているといわれて来たのですが、最近は零成長、若しくはマイナス成長、といわれる程暗い傾向がささやかれています。

かつて、日本市場であった韓国や台湾は、今や競争相手となりつつあります。例えば、韓国では、既にウォーターゼットが8,000台もあり、しかも、アメリカから安い原糸の供給をうけて居りますので日本製品を必要としなくなりつつあります。又機械についても韓国

では既に飽和状態で、日本からの輸出は細まる一方です。しかも国内では消費が思うように伸びない為、国内市場の新規需要の開拓も、余り期待出来ません。

その上、企業は無人工、省力化の傾向に押され、安易に高額は無人工、省力化の設備投資をした為、その借財は莫大な金額に上り、その返済が重くのしかかっております。

このような経済情勢下において、経営者が特に留意すべき点として新規採用と時間管理の問題を指摘出来ます。

単に、忙しいからと言って人を採用するのではなく、一人採用するとすれば、少なくとも100万円の収益を上げる目途がなければならぬという事です。社員一人分の福利厚生費等も含めた人件費は400万円にも上るといわれていますが、年7%あて上昇するとすれば1年で28万円、2年で56万円となり100万円の収益を上げておけば凡そ4年位は何とか持ちこたえる事が可能です。

つぎに、鉄工機械工業は、高収益をあげておりますが、この理由の一つは、1分1秒を争う合理的な時間管理を、行っているからです。一般に企業存続に必要な1時間の最低工賃は2,000円といわれておりますが、分に換算すれば33円であります。1時間に3,600円の収益を上げるとすれば1秒間1円となりますが、機械工業はこの1秒1円というラインで、真剣に時間管理にとり組み、その合理化に努力し、高収益をあげているのです。この1分1秒を争う時間管理は機械工業に限らず何処の職場でも必要な事です。

その他、間接部分における有効適切な運営を計る事は勿論、この際初心に立ち戻り、損益分岐点、資金繰、得意先の信用度、製品等について今一度見直しを行い、弱いところを徹底的に洗い出してこれを補強し、無理のないバランスのとれた経営に徹する必要があると考えます。

—金沢北RC例会講話より— (文責 中村三次)

大場さんの偉業を讃えて

柴田 三郎

“人間国宝……重要無形文化財保持者”は、芸術家として最大の榮譽であり、最高の技芸を保持することの国家的認定である。このたび、われらの大場松魚さんが、その輝かしい印綬をうけられたのは、この上なき慶びあり、深く敬意を表して止まない。

世の芸術家と称せられる人々の中には、その実力よりも、政治力の先行するのがあると言われるが、大場さんは、いとも謙虚で人格は豊かで、非凡なる才能を身につけながら、なお、たゆみなき精進を重ねつつ、あたかも名技“平文”の如き鋭い感覚が、穏やかに秘められていて、端正なる丹頂鶴を思わせる。論語の一節に『人はたえず自らを戒めて上達せよ』とあり、『温、良、恭、儉、讓』を訓えている。まさに大場さんである。

大場さんは、名工で御尊父の故・和吉郎さんに漆芸の手ほどきを。そして賢母（はついさん、83



慶びの大場家四世代の人々

才で御健在）と、良妻（外茂栄さん、55年11月逝去）の物心の大きな支え、そして、素晴らしい師に恵まれて、道ひとすじに打ち込んだのであろう。

大場さん宅の客室には、芸術院会員、人間国宝で漆芸の最高峰、松田権六先生から贈られた書状が、人生訓として表装されて床の間に掲げられている。かつて大場さんが第4回日展出品の“漆之宝石箱”が特選を受賞の昭和23年10月のときのものである。

この師にして、この弟ありの感を禁じ得ない。

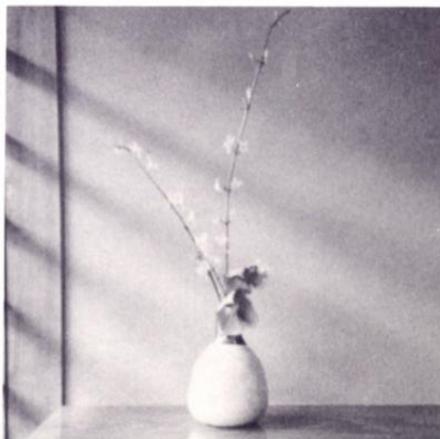
◇威張らぬこと。益々精進すること。不出品者に対しては特に言動に注意すること。

◇政事的な策動からラチ外のこと。不言実行を本尊とされたし。愈々大和精神の根源をつき生ける現代の作品を如何に表現すべきかに邁進されることを望む。

今週の花

吉山宥海
(4月1日)

れん ぎょう
連 翹
延 令 草



職場親善女子球技大会

昭和57年3月28日(日) 10:00am.~3:30pm 瓢箪町小学校

卓球とバドミントンで会員職場の人達と家族の親睦と交流をと、毎年職業奉仕委員会が主催している恒例の行事ですが、今年も、卓球18名、バドミントン14名の女子選手の他、男女が一組になる混合にも、佃・石丸両会員を含めて14名が出場、熱戦が展開されました。

大場会長の開会挨拶につづいて卓球・バドミントン両種目が一せいにスタートしましたが、結局昨年につづいて、ひょうたん町耳鼻咽喉科医院チームが、団体戦に両種目に優勝しました。

以下成績は次の通りです。

卓球団体戦

- 優勝 ひょうたん町耳鼻咽喉科医院 5勝
- 2位 佃食品 3勝2敗(11点)
- 3位 越野病院A 3勝2敗(7点)
- 4位 越野病院B 3勝2敗(6点)
- 5位 越野病院C 1勝4敗
- 6位 金沢シール 0勝5敗

卓球個人戦

- 優勝 安多良子(佃食品)
- 2位 高宮いわ子(ひょうたん町耳鼻咽喉科医院)
- 3位 吉村悦子(越野病院)
- 4位 前茂子(佃食品)

バドミントンダブルス戦

- 優勝 石丸恭子・西谷千賀子(ひょうたん町耳鼻咽喉科医院) 6勝
- 2位 若山由美子・森下五月(越野病院) 5勝1敗
- 3位 下沢征津子・坂井よし子(ひょうたん町耳鼻咽喉科医院) 4勝2敗
- 4位 瀬川智子・西村桂子(金沢シールA) 3勝3敗
- 5位 (佃食品)
- 6位 (金沢シールB)
- 7位 (飯野歯科)

バドミントン団体表彰

(原則として4人出場)

- 優勝 ひょうたん町耳鼻咽喉科医院
- 2位 金沢シール
- 3位 越野病院
- 4位 佃食品

なお、アトラクションとして行われた混合ダブルスでは

卓球

- 優勝 佃建三・佃真紀子(佃食品)
- 2位 山田忠・安多良子(佃食品)
- 3位 宮本幸一・森幸恵(佃食品)

バドミントン

- 優勝 石丸幹夫・下沢征津子(ひょうたん町耳鼻咽喉科医院)
- 2位 林一夫・中栄康博(中栄草栄堂)
- 3位 佃一成・出雲ゆき美(佃食品)

当日は好天に恵まれ絶好の行楽日になってしまいましたが、多くの人達が室内競技に参加していただき有難く思っています。只、会社の決算期にあたる所もあり、出場出来なかったチームもあったことは反省させられました。来年に期待いたします。

出席会員 大場、土原、桜井、笠間、佃、浅田、魚住、石丸、萩原

(石丸幹夫記)



